

自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校臨床実践コース
／小坂 浩嗣

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

学校現場で活躍できる生徒指導実践力を有した教員養成を目指したトレーニングの一つとして、事例研究法の開発とその改善を目的に授業実践や事例研究会に取り組み、その検証からトレーニングのプログラム化を図りたい。

- ①生徒指導の実践に関する経験知に理論知を裏打ちするため、実践事例についての過程分析法による検討に取り組みたい。
- ②受講生のワークショップ型授業形態により、教員と院生との協働による授業展開を考えたい。
- ③授業で分析した事例過程の特徴を明示化できるツールの開発に取り組みたい。

2. 点検・評価

①については、後期の「生徒指導・教育相談の実践と課題」において院生個人が実践事例を見立てるワークシートを開発し、院生に実施した結果、事例の経過を筋道立てて捉え直すことができたとの評価を得た。

②については、前期の「生徒指導と教育相談に関するケースカンファレンス」と後期の「生徒指導・教育相談の実践と課題」で授業実践をした結果、授業への積極的参加意欲が高まったとの評価を得た。

③については、事例経過を明示化する案を創案したまでに止まっている。その案を実施・検証することが課題として残った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

広報活動として、教育委員会や学校現場、大学への訪問を積極的に推進したい。

- ①教職大学院の広報パンフレットの改善・作成およびガイドブックの作成
- ②教職大学院修了生の連絡ネットワークの構築
- ③教職大学院同窓会の設立
- ④昨年度に訪問した大学への継続訪問

2. 点検・評価

①教職大学院の広報パンフレットについては、ガイドブック簡易版と現職版(CASE4)とSRコース版の3種を作成・配布した。

②については、教職大学院修了生の名簿整理をして連絡ネットワークを構築する準備を整えた。

③については、10月に教職大学院同窓会が設立された。

④については、九州方面の大学を中心に、合計8大学への訪問活動を実施した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①教職大学院学生の学校課題フィールドワークに関わって、フィールドでの実地指導を積極的に進めていく。
- ②学生からの学習や生活等の相談が受けやすいように、オフィスアワーの明示と研究室の敷居を下げる雰囲気作りに努める。
- ③1年次生と2年次生との学生間の交流を図るため、学生主体の研究会や行事の立案・計画・運営を推進する。

2. 点検・評価

- ①については、フィールドでの実地指導に代わり学内での指導頻度を増やし、実習内容の充実化と院生支援に取り組んだ結果、院生から一定の実習成果を挙げられたとの評価を得た。
- ②については、特に研究室の環境整備に努めた結果、院生等の研究室訪問の回数が述べ144回であった。
- ③については、学生主体の箱庭研究会(3回)や親睦行事(2回)を実施した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①「鈴鹿市の教育委員会及び学校と鳴門教育大学が協働的な関係を構築する」研究に係わって、研究分担者として支援法の開発と支援の実践に従事する。
- ②学校現場における生徒指導・教育相談に関わる実践的知見の体系化について、実践事例等の資料を追加収集する。
- ③生徒指導・教育相談に関わる実践事例をもとにした事例検討・事例研究法の開発に関わって、学校現場や地域での事例検討会を計画・実践し検証する。

2. 点検・評価

- ①については、研究分担者としての任務を果たすことができなかった。
- ②については、6つの事例を収集し、編集して生徒指導事例研究集にまとめ、発行・配布した。
- ③については、公開講座として事例検討会を1回開催し、約20数名の参加者があった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①教職大学院副専攻長として専攻の改編と円滑な運営に努める。
- ②大学院入試委員として、厳正かつ公正な入試業務に努める。
- ③精神保健相談員として、教職員や学生のメンタルヘルスに努める。
- ④心理・教育相談室の相談員として、相談室の運営に努める。

2. 点検・評価

- ①については、専攻組織の再編と新カリキュラムの編成に関わり、それぞれの年度内完了を果たすことができた。
- ②大学院入試委員として、特に広報担当業務を中心に入試業務全般に務めることができた。
- ③精神保健相談員として、公式受理はなかったが、個人的に教職員や学生の個別相談に応じた。
- ④心理・教育相談室の相談員として、継続ケース3件をの相談に務めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①徳島県スクールカウンセラーのスーパーヴァイザーとして、スクールカウンセラーを支援することを通して地域貢献に努める。
- ②公開講座の開催や支援講師アドバイザーを通して、大学と地域や学校現場との連携関係の構築に努める。
- ③日本生徒指導学会理事として、学会運営や四国支部研究会の運営に努める。

2. 点検・評価

- ①については、非公式でスーパーヴァイジョンを2件実施した。
- ②については、1件の公開講座を開催した。
- ③日本生徒指導学会理事として、研究誌の査読業務や年次大会の運営に務めた。また四国支部研究会の運営に務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)